

令和4年度愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり協議会開催結果

1 開催日時 令和5年2月16日(木)13:30~15:10

2 開催場所 (web開催)

3 出席者

【委員】 齊藤委員、鳥居委員、西村委員、白石委員、山岡委員、近藤委員、篠原委員、河野委員、竹内委員(9名)

(福田委員、西岡委員、利光委員欠席)

【事務局】 丹課長、青陰技幹、三宅係長、和田専門員、大澤専門員(5名)

4 協議会の内容

(1) 齊藤会長挨拶

- ・この事業も5年目となり、来年度が最終年度の予定。今後事業の形が変わるかもしれないが、今までの5年間でいろいろなデータが蓄積されてきた。課題もみえてきている。一次予防からの各レベルで必要な検討事項は違うが、愛媛県で一致団結し、一次予防に取り込めるような形でデータが活用できればと考えている。
- ・今日は様々な分野や団体からの代表にお集まりいただいているので、忌憚のない御意見を頂戴したい。

(2) 議事

I 本年度の事業報告について

○事務局説明①

〔資料1〕

＜愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり事業と取組みについて＞

- ・H30年度から事業開始、国保と協会けんぽのデータを合わせて県人口の約8割に当たるデータを分析し、地域での健康づくり施策に活用。県民の健康に対する関心を高め、生活習慣改善を促し、健康寿命の延伸、医療費・介護費の抑制を目指す。
- ・各地域での県保健所単位の実践ワーキングチームと松山市保健所、分析ワーキンググループがメンバーとなっているのが代表者会議で、好事例の横展開や情報共有を実施。本協議会は、事業全体の評価の会議体である。
- ・事業開始から前半3年間はデータ分析を中心に現状や課題の把握、後半の3年間は各地域での効果的な保健事業や健康づくり施策の実践を行う。県内20市町において保健所と協働しながらビッグデータ分析を活用した保健事業展開ができることを目指しているが、コロナでの業務逼迫の影響が大きく予定通りに進んでいない地域もある。
- ・令和2年度から開始したスマートヘルスケア推進事業、産官学連携における循環器病対策、令和3年度に策定した愛媛県循環器病対策推進計画に基づく取組みとも連動して取組みを行っている。
- ・今年度は蓄積されたデータにより経年変化分析し、『健康づくり通信No3』を発行予定。
- ・スマートヘルスケア推進事業においては、利用者アンケートの結果より生活習慣改善に寄与する可能性があるため、今後は医療費抑制額の結果と合わせて、全県民への健康づくり施策となるかどうか検討を進める。
- ・愛媛県循環器病対策推進計画に基づく取組みでは、ビッグデータ分析から導き出された『健康課題は高血圧』であることを打ち出し、健診受診を促すチラシを作成。

○委員からの意見等

[スマートヘルスケア推進事業について]

- ・健康アプリの登録者のうち、ドロップアウトせずどのくらいの人が使っているか。
⇒(事務局) アクティブユーザーの割合は60%を超えていると報告があり、類似のアプリよりは高くなっている。
- ・目標数の設定については適切かどうか。若い人へはもっとインセンティブをつける等工夫をしてはどうか。
⇒(事務局) 対象となる国保の方のうち2%に登録いただけたら医療費抑制の効果が出ると判断

して、事業終了時の目標として7,000人としている。令和5年度までのモデル事業としているため、医療費抑制の効果が出るようであれば、対象者を広げることなども検討する予定である。

○齊藤会長説明

〔報告1〕

<ビッグデータ分析（概要・速報）について>

- ・令和4年度に実施した分析は、主に①特定健診結果・レセプト②介護保険③全国がん登録データ④死亡個票データ、によるもの。
- ・高血圧については、宇摩圏域と宇和島圏域が重要な課題。一方で、宇摩圏域と宇和島圏域の高血圧（入院外）の受療率が低いのは高血圧が放置されているのではという推測。
- ・メタボリックシンドロームの割合が増えている。
- ・平均自立期間は、男女ともに宇摩圏域と宇和島圏域で短く女性では今治圏域も短い。高血圧から要介護の増加という関係があるかもしれないが、脳血管疾患（入院）の受療率の低さとは矛盾がある。
- ・心不全死亡は2005年から減少に転じているが、心不全という病気が減ってきたというよりは、心不全という死因が別の死因に置き換わってきた可能性もあり。

○委員からの意見・現状報告等

- ・高血圧の分布については、治療状況も加味したものか。服薬状況を加えないデータも見てみてはどうか。
- ⇒（齊藤会長）高血圧の分布については、特定健診結果を基にしており、服薬者を加味している。服薬者を差し引いたデータについても今後検討したい。
- ・介護データと受療率（入院）データについて、発症してからの住所移動の影響はあるか。施設等の多い地域に多く集まっているのではないか。
- ⇒（齊藤会長）住所移動は基本的に反映されていない。データの中身を確認していきたい。

○事務局説明②

〔報告2〕

<愛媛県高血圧重症化予防プログラムについて>

- ・県の現状と課題を踏まえ、様々なポピュレーションアプローチの取組みを進めているが、県全体のハイリスクアプローチとして、高血圧の方にしっかりと関われる仕組みとして策定。地域や行政側だけの対策ではなく、かかりつけ医と連携した高血圧対策の必要性があった。
- ・プログラムの3つの柱は「受診勧奨」「かかりつけ医と連携した保健指導」「専門医受診勧奨」であり、来年度からプログラムの運用を希望する市町国保で取組み可能な部分から開始予定。いずれは被用者保険の保険者にも参画していただき全県での取組みとしたい。
（委員からの意見等特になし）

Ⅱ次年度事業について

○事務局説明③

〔資料2〕

<次年度の取組み案について>

- ・令和5年度は、県の健康づくり計画をはじめとして多くの関連する計画が評価・見直し・次期計画策定の予定。県の健康づくり計画においても、ビッグデータ分析結果を指標として活用することを検討。
 - ・県の健康づくり計画の見直しに伴い、今までの取組みの強化や新たな取組みが必要になってくるため、ビッグデータ活用県民健康づくり事業についても見直しを図る。
 - ・アフターコロナのDX推進として、健康アプリの更なる活用を進めるとともに、本協議会の齊藤会長の所属する研究班で、アプリの有用性について評価を実施。その結果を踏まえ、アプリの全県民展開に向けて必要な検討を行う。
 - ・循環器病予防のための普及啓発に向けて、メディアやデジタルを活用した効果的な情報発信を実施。
- ⇒以上の取組み案について、委員の承認を得た。